

(仮称) 小牧市農業公園整備基本構想 (修正) (概要版)

(仮称) 小牧市農業公園については、建設費に多額の費用を要すること、集客などが見込めないことなどにより、一時、計画を凍結する判断をし、平成 25 年小牧市議会第 1 回定例会において報告をしてまいりました。

それ以後、整備計画の白紙見直しとともに事業内容の精査、事業用地の利活用などについて様々な意見を踏まえ、検討を進めてまいりました。

農業公園の事業検討における課題として、事業費の縮減に向けた取り組みと、農業振興に向けた土地活用という 2 つの観点から、事業全体を見直したものです。

平成 27 年度に事業用地の活用及び計画の見直しを再検討するために、(仮称) 小牧市農業公園検討委員会を設置しました。

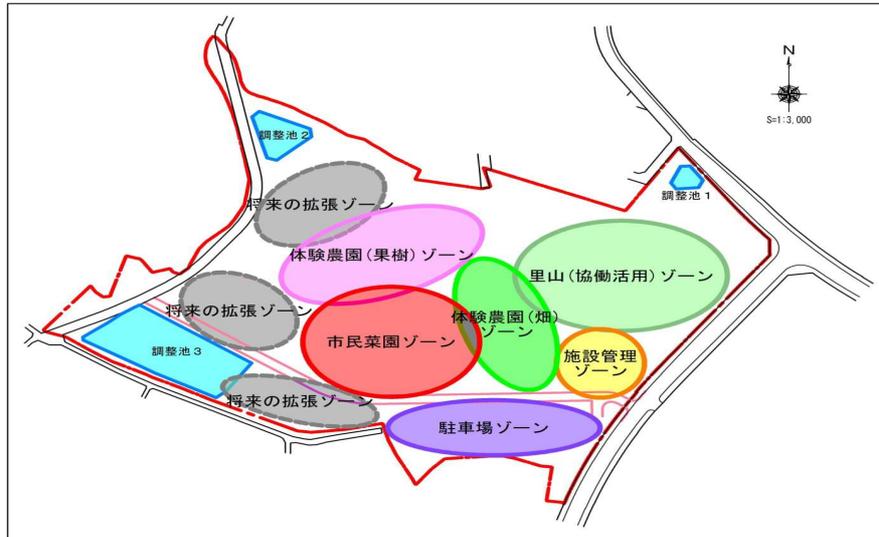
本「基本構想の修正」は、これまでの流れを汲み、また検討委員会において、現地や県内他市の農業関連施設の視察を実施した折の委員意見や市民アンケートの結果を受け、農業への関心や営農意欲を育む農業関連施設の必要性を考慮した結果、事業用地の利活用について、従前からの基本理念である「食育と環境」を念頭に土地利用や管理運営などの基本構想の再構築を進め、策定したものです。

《事業コンセプト》	
(1) 基本理念 (テーマ) 「食育と環境 ～農と里山の恵み・ふれあい～」	
対 象	子どもや高齢者の方々を含めた全ての世代の市民
目 標	次の 2 面の方向から、農業振興の発信の場を目指す。 (食育の面から) 身近な農業を通じた食の大切さを理解する場。 (環境の面から) 里山を活かし自然環境とのふれあいの場。
(2) 基本方針 (キーワード) 「体験」、「交流」、「育成」	
体 験	一定期間畑を貸し出し農作業を営む「市民農園」や収穫する楽しさを体験する「収穫体験農園」ができる場の提供。
交 流	市民や生産者が、農業を通じてふれあい、生きがいを感じる場の提供。
育 成	地域に根付いた担い手が育成・確保されるよう、農業・農作業の知識等を提供できる場 (教室) の提供。

○土地利用の考え方

農業公園全体を、農作業を通して身近な農業に触れることができる「市民菜園ゾーン」、農業と食べ物をつなぐを農業体験等を通して伝える場となる「体験農園 (畑) ゾーン」及び「体験農園 (果樹) ゾーン」、里山の散策をしながら自然環境とふれあう場である「里山 (協働活用) ゾーン」、そして管理棟や農作業具置場などを設置する「施設管理ゾーン」の、5 つのゾーンに区分し、その他の部分は、「駐車場ゾーン」や、利用に応じて将来的に拡張することを考える「将来の拡張ゾーン」とします。

(ゾーニング図)



(市民菜園ゾーン)



(体験農園(果樹)ゾーン)



(体験農園(畑)ゾーン)



(里山(協働活用)ゾーン)



○概算事業費 425,000 千円

(内訳) 造成開発区域の整備費(将来の拡張ゾーンを含む。)約 6ha 305,000 千円

建築物等(管理棟他一式) 120,000 千円

※概算事業費については、他の施設の事例を参考に算出したものです。

○今後のスケジュール(予定) 2022年10月供用開始(一部)

2018年度~2022年度 基本計画、地質調査、基本設計、実施設計、造成工事
管理運営体制の検討等